

■ぬまづ近代史点描73

鍼医木村簾敬と視覚障がい者教育

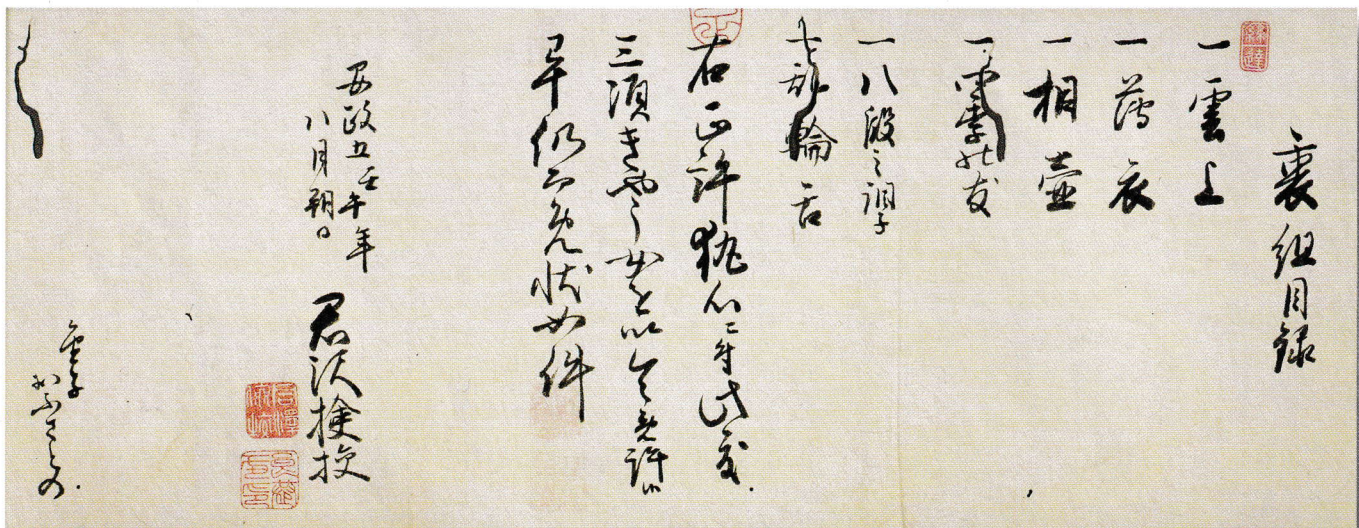
■企画展のお知らせ

■夏のイベントのお知らせ

二〇一三年七月

通巻114号

沼津市明治史料館通信



三島宿の君沢検校による琴の免状・裏組目録

(伊藤栄勝氏寄贈)

安政5年(1858)8月1日。君沢検校(良恭一、1798~1858)は、伊豆国君沢郡三島宿の素封家栗原家に生まれ、幼くして失明したものの、天性の聡明さから、音律・和歌や学問を教えた生涯を送った人。受取人の金子ふさは、後に沼津宿本陣高田弥宗太に嫁いだ人。

鍼医木村簾敬と視覚障がい者教育

静岡県平民

第一大区六小区

西熊堂村五番地

小野恒闊

百五十一号

明治十年二月三十三年三月

無縁

平民 富沢研道

明治十年二月

一文久三癸亥年二月より駿河国駿東郡沼津宿住居水野出羽守
家来芹沢勾當ニ随ヒ慶応二丁卯年四月迄四ヶ年三ヶ月間杉
山流鍼術修業

山流鍼術修業

一同年六月ヨリ西熊堂村ニ於テ杉山流鍼術開業

一明治六年八月ヨリ沼津駅新裏丁木村簾敬ニ随ヒ洋方鍼術修
業仕居候

右之通相違無御座此段上申候也

明治十年二月

本人

明治十年二月

(西熊堂区有文書D-11)

小野恒闊

明治二年五ヶ月に静岡藩によって実施された日本における初の近代的人口統計調査「駿河沼津政表」には、職業別の人口が集計されており、農・工・商とは違う「芸術」の中に、「勾當 一」、「針治導引 勾當配下之者 盲人男十八・女五」、「導引 三十八」、「琴儀大夫常警津唄 盲人男三・女一」、「警女会津 伊豆一」、「外警女 二十」、「警女弟子五十一」といった記載がある。同じく「駿河国原政表」には、「芸術」の中に「算術指南 男 盲目 一」、「針治 男 同 一」がある(『杉先生講演集』)。近世の宿場町において、特定の技能を有した視覚障がい者がたくましく生きていた様子がうかがえる。原宿の算術指南とは、沼津で算盤塾を開いていたという盲人義佐一(『沼津市誌』下巻)のことであろう。

江戸時代、盲人たちは検校・別当・勾當・座頭という官位を与えられ、階層化されていたが、明治四年(一八七二)八月、京都からの指令により、これまでの伊豆国君沢郡間宮村ではなく、沼津宿の富士崎勾當が、座頭が伊豆国で休泊する際の仕切金の管理にあたることになったとの布達が出されており(『沼津市史 史料編 近代1』)、明治維新を背景に古い秩序に変化をもたらす動きが始まったようである。

西洋化、近代化への胎動は、以下のような存在からも読み取れる。まずは、同じ時に作成された二名の人物の履歴書をご覧いただきたい。

履歴明細書

静岡県下

駿河国第壹大区一小区

駿東郡獅子浜村百貳十三番地

農長沢庄兵衛方同居

静岡県令大迫貞清殿

履歴明細書

(獅子浜植松家文書C-151)

右

富沢研道印

一明治五壬申年二月ヨリ同七年一月迄何ヶ年何ヶ月之間同
新裏町洋医木村簾敬江入塾修行
一明治七甲戌年二月同県下第壹大区一小区駿東郡獅子浜村百
廿三番地農長沢庄兵衛方江転移同居之上開業
右之通り相違無御座候間此段奉申上候也

二人の履歴中に登場する「杉山真伝流」とか「杉山流」というのは、伊勢国出身の総検校杉山和一(一六一四〜九四)が創始した鍼治療の流派である。また、小野の履歴中に出てくる芹沢勾當なる人物は、沼津藩士の身分でありながら、勾當でもあったということ、興味深い存在である。しかし、何と言っても注目されるのは、富沢が師事したという杉田玄端である。彼は静岡藩の沼津病院頭取をつとめた著名な洋学者・蘭方医であるが、富沢に「洋法指鍼術」を教えたというので、日本の伝統的な鍼灸治療とは違う西洋式のそれを指導したのである。明治四年(一八七二)、明治新政府は、杉山和一による開設以来江戸に存在した鍼治稽古所を廃止し、漢方や鍼灸を撲滅しようとしていた。杉田が西洋医学と東洋医学の折衷を目指したのだとすれば、それは中央とは違う独自な取り組みだったといえよう。藩内では、静岡病院のほうでも、漢方の奥医師で「御針科」だった石沢宗哲・茂木得鍼・杉枝仙貞らに病院無級看護頭を兼任させるなど(『静岡県史

資料編16近現代一)、決して伝統療法を捨て去ったわけではなかった。

そしてもう一人、二人に「洋方鍼術」を教えた木村廉敬(廉敬)なる人物の存在が注目される。「洋医」と記されているので、彼も西洋医学を学んだのであろう。「城内町の鍼治医木村廉敬氏の門弟鈴木玄廣さん」云々という新聞記事もあるのだ(『沼津新聞』明治一六年一月七日)、門人は少なくともなかったようである。

ロシア正教・三島ハリストス正教会の信徒台帳「教会銘度利加 第巻卷」(大沼家所蔵)には、明治一三年(一八八〇)三月二四日に受洗した者として「沼津駅平民 木村廉敬 三十八年三月月 聖伊沃鳥」、「木村イヲウ長男 木村謹吾 十五年五月」との父子の記載がある。また、木村廉敬と金吾(謹吾のことだろう)は明治一〇年(一八七七)には、プロテスタントの日本基督一致教会三島教会に集団で転宗したとの記録も残る(『日本キリスト教団三島教会百年史』、五〇〇頁)。

木村謹吾は沼津中学校の生徒だったようで、角田謹一郎・中野峯得らとともに試験の成績優秀者として新聞で名前が報じられたこともあった(『沼津新聞』明治一六年三月七日)。



鍼医木邑廉敬先生墓
(沼津市・長谷寺)

どはわからない。あるいは旧幕臣だった可能性もあるだろうか。いずれにせよ、西洋医学を身に付けた鍼医木村廉敬は、キリスト教に入信し、息子を沼津中学校に通わせた、当時の沼津ではハイカラの紳士だった。

沼津市千本緑町の長谷寺に、正面に「鍼医木邑廉敬先生墓」、裏面には「明治三十三年八月十二日永眠」「市川貫齋 加藤清 木塚原清 堀江敬慎 佐藤哲 平田松軒 杉山源道 飯野□□ 石垣□□」と彫られた立派な墓石が立っている。

裏面に記された人々が友人なのか門人なのかわからないが、市川寛齋は、明治一〇年日本基督一致教会三島教会に木村父子とともに入信している。また、堀江敬慎(保太郎、一八五三?)が沼津兵学校第七期資生で、後に群馬県師範学校教員・埼玉県視学・帝国大学医科大學書記などをつとめた旧幕臣であることははっきりしている(拙稿「沼津兵学校関係人物履歴集成 その六」『沼津市博物館紀要』36)。沼津を離れて久しいはずの堀江であるが、木村とどのような接点があったのか不明。

沼津市鍼灸マッサージ師会のホームページには、同会の歴代会長の一覧が掲載されており、初代会長(任期一八八八〜九八年)として「木村連敬」の名がある。当然ながら、連敬は廉敬の誤りであろう。ちなみに二代会長(一八九八〜一九二四年)は平田松軒となっている。

木村謹吾(一八六九?)のその後の経歴は、ある程度判明している。明治二三年(一八九〇)海軍医学校を卒業し、二五年横浜で開業、二八年(一八九五)には陸軍省雇員として台湾に赴任し、以後、同地の病院に勤務、四〇年(一九〇七)台北に木村胃腸病院を開業した。また、大正六年(一九一七)病院内に台北盲聾教育所を創立、同九年(一九二〇)にはそれが私立台北盲聾学校として認可された。昭和三年(一九二八)同校が台北州立に移管された後も校長の任にあった。台北盲聾保護会長をつとめたほか、昭和六年(一九三一)

にはニューヨークで開催された国際盲人事業会議に日本代表として参加した。息子高明(一九〇四?)は、同志社や国立東京盲学校師範科を卒業し、昭和一三年(一九三八)に父の跡を継ぎ州立台北盲聾学校長に就任した(『大衆人事録 第十四版 外地・満支・海外篇』、一九四三年、『台湾日日新報』一九二〇年一月二日)。高明は、日本への引揚げ後は、父母や娘たちと沼津に仮住まいの後(中島正道氏談話、神奈川県に転居、東京都立八王子盲学校校長(一九五三〜六五年)や全国盲学校長会会長(一九六四〜六五年)などをつとめていた。

廉敬・謹吾・高明と木村家の人々は、三代続けて視覚障がい者の教育に尽くしたことになる。そもそも廉敬が視覚障がい者教育を志した背景には、自身も「盲目で」あり、「自分と同様の」「苦しむ者を救わんと」の強い意志があったという。そして子・孫がその遺志を受け継ぐとともに、活動の場を異郷の地に広げたのだった。台北盲聾学校は、現在も台北市立啓明学校と名を変え存続している(澤田真弓・渡辺哲也「台湾における視覚障害者事情」『台湾における視覚障害児・者の状況』)。

以下は余談となる。やや時代が下るが、先述の沼津市鍼灸マッサージ師会の歴代会長の中に、「笹原善次郎」(任期一九三二〜三五年)という人物がいる。一方、静岡村多比の笹原善四郎(昭和三年三月二四日没、八五歳)は、駿東郡・田方郡などのマッサージ師や按摩の団体が開催する講演会の講師を江原素六に依頼した手紙を二通残している(江原素六関係文書E-1-a-305, 306)。その手紙はいずれも大正一一年(一九二二)三月のものであるが、最晩年の江原が依頼を受けたのか否か、どのような講演を行ったのかについては不明である。笹原善四郎は多比村戸長や静岡村長(初代)をつとめた地域の有力者であった。没年からすると、善四郎・善次郎は別人のようだが、二人の関係は未確認である。(樋口雄彦)

企画展のお知らせ

沼津市制施行90周年記念事業
第6回沼津文学祭

「芹沢光治良の過ごした沼津」

8/3(土)～8/28(水)

第6回文学祭の一環として、芹沢光治良の代表作『人間の運命』に沿って、明治29年～昭和20年頃の時代背景を、明治史料館にある資料をまじえて紹介します。

主催 沼津市芹沢光治良記念館・共催 沼津市明治史料館



夏のイベントのお知らせ

戦時中のくらしを体験しよう

日時：8月7日(水) 10:00～15:00

対象：市内の小学4・5・6年生

定員：30名(先着順)

戦時中の話を聞いて、「すいとん」を作って食べます。近隣の戦争史跡の見学もします。

参加費無料(ただし、保険料15円)。

平和を考える戦争史跡めぐり

親子 日時：8月9日(金) 9:00～15:30

対象：市内の小学生とその保護者

定員：23名(先着順)

中学生 日時：8月11日(日) 9:00～15:30

対象：市内の中学生

定員：23名(先着順)

マイクロバスで市内の戦争史跡見学をします。

参加費無料(ただし、保険料15円)。

中学・高校生のための 1日学芸員体験講座

日時：8月8日(木) 10:00～15:00

対象：市内の中学生・高校生

定員：10名(先着順)

当館学芸員による講義と館内施設や展示の見学、資料を使った実技を行います。

動きやすい服装で。



◀戦争史跡めぐりの様子

学芸員体験講座の様子▶



申込はいずれも7月23日(火) 9:00から電話にて受付

沼津市明治史料館通信

第114号

平成25年7月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL055-923-3335
FAX055-925-3018

印刷
みどり美術印刷株式会社

第7回そろくまつりが 開催されました

今年も5月19日(日)に開催。

ご来館くださった方、
ご協力くださった方
ありがとうございました。

訂正とお詫び

通信113号p.4「平成24年度当館収蔵資料の利用」の展示使用の内4段目「福田重古」は「福田重固」の、7段目・11段目の「川村清雄画「子どもを連れた女」(川村清衛氏寄贈)」は「羽山和子氏寄贈」の誤りです。

また、刊行物掲載の9段目「野沢房迪宛関係資料」は「野沢房迪関係資料」の誤りです。

訂正してお詫び致します。